

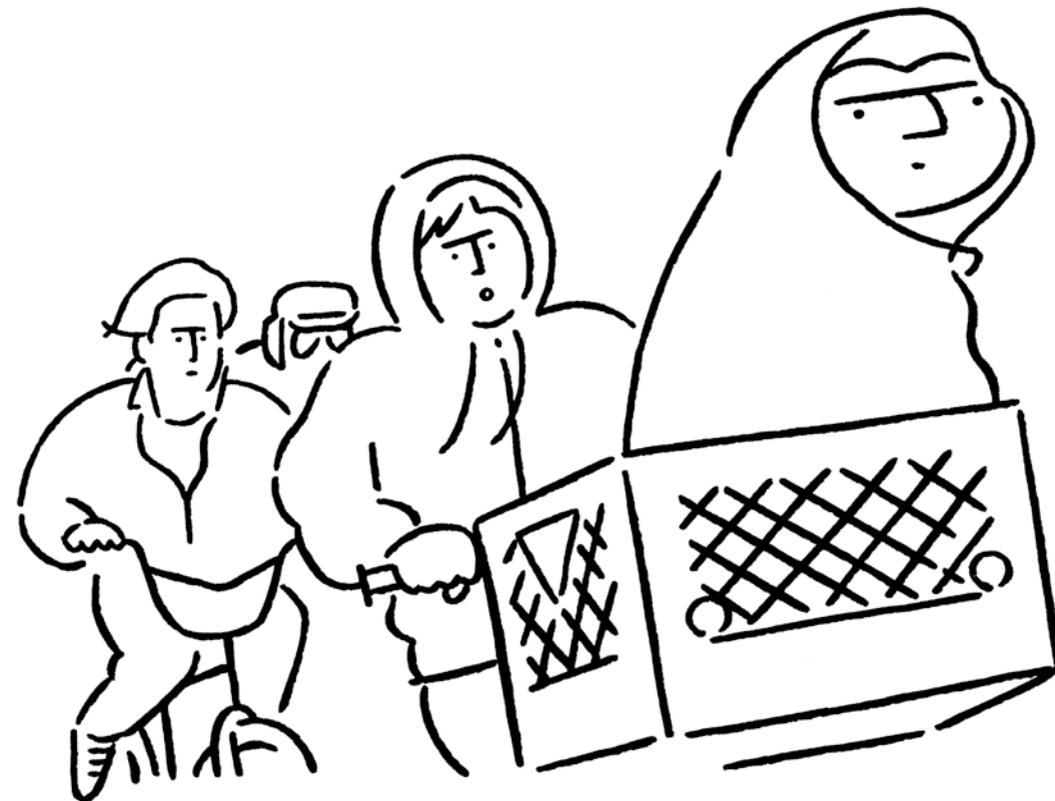
いつもここにいるよ。

I'll be right here.

E.T.

アメリカのある街に宇宙から謎の生命体が降り立つ。地球の植物サンプルを採集するのが目的だ。しかし、その姿を人間に発見されてしまったからさあ大変。慌てて宇宙船を発進させた一行だったが、1匹だけ取り残されてしまう。ある民家に身を隠したこの1匹は、その家に住む少年エリオットに出会う。“Extra-Terrestrial”略してE.T.と名付けられたこの生命体は、周囲と馴染めないエリオットにとって初めての友達と呼べる存在になる。しかし、どんな関係にも別れはつきもので、それは固い絆で結ばれたエリオットとE.T.にとっても同じだ。迎えにきた宇宙船に乗り込むE.T.が最後にエリオットの胸を指差して、覚えてたの英語で囁くのがこの言葉だ。別れの言葉として「さようなら」でも「あばよ」でもなく「いつもここにいるよ」とは洒落た宇宙人だ。

宇宙からやってきた地球外生命体と、周囲と馴染めない少年エリオットの心温まる交流を描くヒューマン・ドラマ。まだあどけないドリュー・バリモアが、エリオットの妹役として出演している。





本当の負け犬とは、勝てないことを
恐れて挑戦もしない奴のことだ。

A real loser is someone who's so afraid of not winning that they don't even try.

リトル・ミス・サンシャイン

ヘロインを吸引したことにより老人ホームを追い出された祖父、勝ち組を目指しているがどうにももうだつの上がない父、恋人にフラれて自殺未遂を起こしたゲイの叔父、宇宙飛行士になる夢が実現するまでは沈黙を守ることにした長男、ふくよかな自らの体型にコンプレックスを抱く長女、そして、そんな彼ら彼女らの間で上手く立ち回ろうとする母。それぞれに問題を抱えるこの一家がおんぼろのワーゲンバスに乗り込むのは、長女がなぜか地区予選に選ばれた美少女コンテストの会場に向かうためだ。この発言は、コンテストを前にして弱気になる長女に対する祖父のものである。“絶対に負けられない戦い”なんてものはこの世にはない。結果は結果でしかない。重要なのは、勝てないとわかっている勝負であろうとも挑もうとする、その勇気なのだ。

それぞれに問題を抱えているワケありな家族が、末娘が出場する美少女コンテストに向かうため、おんぼろのワーゲンバスに乗って旅に出る姿をコミカルに描く。

人生なんてそんなもんさ。
だけど逆転することもある。

That's the way it goes. But don't forget. It goes the other way too.

トゥルー・ロマンス

「人生は山あり谷あり」なんて言葉があるが、果たして本当か。実際のところ、山も谷もない平坦な人生を送っている人が大多数なのではないか。クラレンスとアラバマもまた、それぞれに平坦な人生を送ってきた。しかし、2人が出会い、たちまち恋に落ち、コールガールをしているアラバマの雇い主をクラレンスが殺してしまったことから事態は一変する。平坦な大陸プレート同士が衝突し、地面が劇的に隆起したかのように（雇い主を殺した旨をクラレンスから告げられたアラバマの反応もいい。いわく「殺したなんて……なんてロマンチックなの!」）。映画の冒頭で呟かれるこのせりふが指しているのは、おそらくそんな事態だ。たとえ「そんなもん」でしかない人生であろうとも、ひょんな出会いから「ロマンチック」になりうる。だから人生、捨てたもんじゃないと。

ぶっとなら男女が出会い、たちまち恋に落ち、犯罪に手を染め、追っ手から逃走するクライム・ドラマ。脚本はクエンティン・タランティーン。さすがに会話の言葉使いがナイス。



誰かの“所有物”になるなんて最悪。
私は自分自身でいたい。

*I don't actually feel comfortable being anyone's anything, you know.
I like being on my own.*

(500)日のサマー

サマーは憤^{いきどお}っている。何に憤っているのか？ 例えば、映画とは関係ないこんな場面を思い浮かべてみてほしい。「娘さんを僕にください」。婚約者である女の父に結婚の申し入れをする際、そんな言葉を吐く男が日本には多くいるという。おかしいではないか。婚約者である女は彼女の父のものではないし、結婚したからといってその相手である男のものになるわけでもない。男と同様に自由意思を持った主体的存在なのだから当然だ。しかし多くの男は、交際や結婚を女の所有権をめぐる何かしらであると考えているらしい。サマーが憤っているのは、そんな男たちの思考回路だ。本作は、内気なトムが天真爛漫なサマーに弄^{もてあそ}ばれた末に捨てられる物語と捉える向きが少なくないようだが、間違っている。トムがフラれたのは、サマーの憤りを理解できなかったからだ。

常識に囚われないサマーと、彼女に恋するトムの500日にわたって続く一風変わった恋物語。イケアでのおまごごとデートのシーンがいい。真似したカップルも多いのではないだろうか。

